

2 全体会　主催者等あいさつ・来賓祝辞

San·En·Nanshin Summit 2016 in Higashimikawa

○主催者挨拶

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長

浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。本日は、第23回となります三遠南信サミット in 東三河ということで、この豊橋市の会場に関係省庁の皆様、地方公共団体の皆様、経済界の皆様、大学関係の皆様、そして市民活動団体の皆様など、本当に多くの関係者の皆様にご参加をいただいております。心から厚く感謝、御礼を申し上げたいと思います。

さて、今回23回目となりますサミットでございますけれども、今回のテーマは、県境連携の蓄積をもとに、これから三遠南信連携の新しい創生、新しい時代を切り開くということがテーマでございます。これまでさまざまな取り組みをしてまいりまして、全国にも珍しい県境を超えた地域連携を行ってきたわけでございますけれども、いよいよ地方創生という時代の流れの中にあって、新しい地域の未来を考えていくという、ある意味で新しいステップ、新しい時代に入ってきたのではないかと思います。

ご存じのとおり、昨年は地方創生元年と言われました。一昨年は元岩手県知事の増田寛也さんが、通称「増田レポート」という衝撃的なレポートを発表されまして、今後25年以

内に基礎自治体の約半数近くが消滅可能性都市になるというレポートを発表したり、人口減少というものは、いかにこれから地方に大きな影響を及ぼすかということを赤裸々にレポートとして発表されました。それを受け、これから地方を元気にし、地域を元気にし、そして日本を元気にしていくということで、国では「まち・ひと・しごと創生本部」をつくり、地方創生ということに大きく取り組みを始めたところでございます。

ご案内のとおり、それぞれの自治体で今将来の人口ビジョンを実現するための総合戦略策定が義務づけられておりまして、皆さんも大変な思いをして今つくられて、あるいはもうつくっていらっしゃる方もいると思いますけれども、そういうことを全ての自治体が取り組まなければいけない時代になったわけです。

地方創生という大きな方針を見ますと、それぞれの地域が地域の資源、あるいは地域の特徴を生かして、知恵も出し、汗もかき、それぞれが頑張って自分たちの地域をよくしなさいよ、そういうところには国も応援していきますよ、恐らくこういうスキームだと思います。

それと同時に、今國の指針の中で大変重要視されているのは都市間の連携とか広域連携ということでございます。こうした大きな枠組みの中で地域の再生を図っていくということも重要な視点となっているということで、この三遠南信、県境を超えた連携、今まで我々が地道に取り組んできた結果、これから時代、逆にこれを生かしていかなければいけない時代に入ってきたのではないかと思います。

今日は地方創生でありますとか、あるいは地域支援、あるいは地域文化を生かした地域振興、こうしたことについて、3人の方から基

調講演をいただきまして、さまざまな問題提起のヒントをいただき、その後の分科会の議論につなげていきたいと思います。

午前中の経済界の皆さんとの会議でも話題になっていましたけれども、一昨日はついに新東名高速道路が愛知県全線開通いたしまして、いなさジャンクションから豊田東ジャンクションまで愛知県、静岡県が大動脈でつながったことになります。そして、引佐で三遠南信自動車道と新東名高速道路が接続をされているわけでございますけれども、三遠南信自動車道はまだ部分供用で、新東名高速道路の開通とあわせ、今、大変大きな経済波及効果を生み出しているところでございます。我々が想定した以上に、それぞれの沿線地域にいい効果をもたらしているという報告も伺っております。

今日は、こうした三遠南信自動車道の経済波及効果については、後ほどご報告もあろうかと思いますけれども、これから地域を挙げて、この道路の1日も早い全線開通を目指して引き続き取り組んでいかなければならぬと思いますし、また、2027年にはリニア中央新幹線開通予定でございます。こちらも待望久しい事業でございますので、引き続き地域を挙げて推進をしていきたいと思っております。

こうしたハード整備に加えまして、今日問題提起もされると思いますけれども、この三遠南信地域のアンテナショップ、これはバーチャルアンテナショップでございますが、こうしたものを通じて地域のすばらしい資源や物産を大いに発信し、こうした発信力の強化ですか、地域の文化を活用した地域振興ですか、こうしたソフト事業にも今後、力を入れていかなければならぬと考えております。

いずれにいたしましても、今日は行政だけではなくて、経済界、大学関係者、市民団体の三遠南信に関わる、あらゆる関係者の皆さんにお集まりでございますので、ぜひ限られ

た時間ではありますけれども、前向きで有益な議論をしていただければと思います。

結びに当たりまして、地方創生という新しい時代の流れの中にあって、この三遠南信という広域連携が、まさに新しい時代を開くと、こうした連携になりますよう、バージョンアップされますように心から期待をいたしましてご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○開催地代表あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 豊橋市長 佐原 光一



改めまして、皆様、こんにちは。当地、豊橋市の市長の佐原でございます。まずもって、ようこそ豊橋市へおいでいただきました。心から歓迎を申し上げます。

この PLAT という施設でございますが、普段はこんなに男性ばかりではないです。1番ここに立ってみて違和感を覚えるのは、そこでございます。大体、催し物は演劇を中心とした催し物が多いですから、半分以上女性なのですが、今日は男性ばかりです。もう少し女の人が目立たないといけないと、いろいろな意味で感じながら、舞台の上から拝見をさせていただいております。

昨年、開催をされました浜松のときは、浜松のアクトシティの中のホールを使って全体会をやりました。あのホールは音楽を中心と

したホールです。ここは演劇を中心としたホールなので、さまざまな部分でホールのつくり込みが違っております。1番大きく違うのは、まず声の響き方を聞いていただいておわかりだと思いますが、演劇のホールは響かないようにつくってあります。なぜかというと、いろいろな音がまざり合うとセリフが聞き取りにくくなるからです。

それから、もう1つ、2階が急傾斜だなと思われるかもしれません、これは舞台からお客様の距離を短くするためです。これは演技者の方たちを見て、表情までよく飲み取れるように、場合によっては女優さんのしわの1つも、2つもわかるようにすることから、こういうつくり込みになっております。

そうした意味で、去年と全然趣の違う舞台構成にはなっておりますが、皆さんこの会に寄せる熱い気持ちは全く同じ、それぞれの地域の熱い思いが集まって、この地域に、このホールに集まっていたいたものと思っております。願わくは、もう少し女性が増えていただくようにと思いますが、本当にありがとうございました。

さて、先ほど、もうほとんどのことを会長がしゃべってしまいましたので、私がしゃべることはほとんどなくなりました。県境を超えて、長い23回という回数を刻む県境を超えての広域連携のサミットであります。古くは天竜川の流れ、そして豊川の流れ、水運が地域の産業を支える最も重要な機能であった時代には、この2つの川の流れに支えられて、この地域は一体となって発展をしてまいりました。そして産業革命、明治を迎えて、重いものを運ぶには当時は鉄道がありましたから、飯田線ができ、二俣線ができ、産業を支える鉄道路線ができて、さらなる飛躍を遂げました。そして先ほどありましたように、道路網が地域の産業を支える大変大きな柱になりました。現在において、今度は三遠南信自動車道ができ、そして豊橋市においては浜松

三ヶ日・豊橋道路がつながることによって、この地域がさらなる飛躍を目指したいと、こうやってみんなで力を合わせて頑張っているところかなと思います。

そんな中で、実は気になることが1つあります。ここに国の方がお三方いらっしゃるのですけれども、支えるエリアが違います。産業界の方は、先ほども議論の中で出てきましたから、お気づきだと思いますが、実は経済産業省においては、私ども豊橋市を中心とする東三河は中部経済産業局で、そして浜松市を中心とする遠州地域、そして飯田市を中心とする南信地域は関東の経済産業局の所轄になります。それでは国土交通省の方が盤石かといいますと、中部地方整備局におきましても、道路と川とポートアイランドといろいろなものを含めると、結構我々の地域は分担されてばらばらになっていますし、同じ国土交通省でも運輸局はテリトリーがまた違ってくるという、大変複雑な構造になっております。私たちは、そんな中で1つになって、多くのことをみんなで力を合わせて大きくなっていきたいという、その気持ちを国に伝えるときに、ぜひこうしたものも1つの局でまとめて面倒を見ていただけるようになったらいいなと思っています。こうした力になるのが、私たちの連携の大きなまとまりである、行政のまとまった力であると思っています。

今日のサミット、それぞれの分科会で、それぞれのお立場で皆さんの地域をよくしよう、みんなと一緒になってもっと元気になろう、その力をご披露いただき、そして議論をして1歩ずつ前へ進む、その過程を踏んでいくそのような会だと思っています。ぜひ皆様方の気持ちを1つにしていただいて、そして総合力として、この三遠南信地域が多く飛躍する貴重な1日にしていただけたらと強く願っております。

最後になりますが、お集まりの皆様、ぜひこの豊橋のまち、東三河をご堪能いただくと

とともに、この三遠南信地域の発展について、これからもますますのご指導、ご支援をよろしくお願いしたく申し上げます。

今日の1日が、皆様方にとって大変実りの多い1日となりますこと、そしてたくさんの仲間ができますことを心よりお祈り申し上げまして、またご訪問を歓迎申し上げまして、開催に当たっての当地のご挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
豊橋商工会議所会頭 吉川 一弘



改めまして皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました豊橋商工会議所の吉川でございます。商工会議所商工会、開催地を代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、三遠南信地域の行政、議会、そして商工会議所、商工会の皆様方、そしてさらに、住民団体の皆様方には遠方より、また、大変お忙しい中、東三河豊橋市へ足をお運びいただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素は三遠南信地域の振興発展に格段のご高配をいただきしておりますご来賓の皆様方におかれましても、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、我が国の経済でございますが、皆様方がご承知のとおり、日本銀行のマイナス金利導入の決定にもかかわらず、為替相場の円

高進行、そして原油燃料価格の下落等大きく変化をいたしておりますけれども、それまでは貿易収支も改善の方向に進んでおりました。

また、政府の地方創生に重点を置いた経済再生の取り組みと相まって、地方経済においても設備投資に根強い意欲が見られておりまし、インバウンドツーリズムにおいても、昨年は過去最高となる約2,000万人の外国人旅行者が来日いたしておりますし、地方の消費拡大に大きな影響を与えたところでございます。

当地域におきましては、長く待ち望んでおりました新東名高速道路の愛知県区間が昨日開通をいたしました。新しい東西国土軸の実現でございますが、観光や物流の側面はもとより、地域社会や産業活動の全体に大きなインパクトをもたらすものと、今後の地域に与える効果に期待をいたしているところでございます。

一方、我が国は人口減少、少子高齢化社会に入りまして、人口は首都圏への一極集中が進んでおりますけれども、地方経済におきましては深刻な人手不足が続いており、地方経済が再生に向かうに当たりまして大きな課題となっているところでございます。こうした課題を克服していくために、地域の行政や私ども産業界もそれぞれの新たな役割や地域の将来像を模索する必要に迫られているところであります。

そこで、ますます広域的な視点に立った地域の取り組みが不可欠であります。広域連携によりまして、地域の諸課題を解決していくかなければなりません。この三遠南信サミットも回を重ね、これまでさまざまなテーマで議論が進められてまいりましたが、三遠南信地域の連携は、我が国の県境連携、広域連携の先駆けでありますし、今新たな時代に向かって行動に移す時期に来ております。

私ども産業界といたしましても、足元の景気対策、中小企業・小規模事業者対策をはじ

め、三遠南信自動車道や浜松三ヶ日・豊橋道路などの整備促進、新産業創出や地域を支える人材の育成・確保など、広域的な視点に立ちまして、行政や他の経済団体、大学等とも連携・協力して、この三遠南信地域の活性化に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今回はサミット会場として、この豊橋のまちなかにございます穂の国とよはし芸術劇場 PLAT をはじめ、ホテルアーフクリッショ豊橋、そしてホテルアソシア豊橋の3会場で開催をさせていただいております。豊橋・東三河の顔とも言うべき駅前に、まちなかの活力ある空気を感じ取っていただければ幸いに存じます。

また、本日のサミットでのご講演や分科会での議論が、ご参会の皆様方にとりまして実り多きものとなりますようにご祈念を申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

○来賓祝辞

■経済産業省中部経済産業局局長

波多野 淳彦 氏



ただいまご紹介いただきました中部経済産業局長の波多野でございます。一言ご祝辞を述べさせていただきます。

本日、第23回三遠南信サミットが盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。経済活動は市の境、県の境、国の境を超えて発展してまいります。そうした拡大する経済

活動をそれぞれの地域が積極的にサポートする仕組みとして、三遠南信という取り組みは大変に意義のあるものと思います。静岡県、長野県、愛知県にまたがる地域を道でつなぎ、産業を振興し雇用の場をつくり、また消防や医療で広域的な連携を図るなど、大きな成果を挙げてこられました。

政府では、一昨年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地域における雇用の創出、若い人の住みやすい居住環境づくりを推進しておりますが、こちら三遠南信地域では、政府の全体的な取り組みに先駆けて行動されており、ここに深く敬意を表する次第でございます。

中部地域の経済の総合的な発展戦略を取りまとめた「TOKAI VISION」が2014年3月に策定されました。「TOKAI VISION」につきましては、経済界として愛知、岐阜、三重のほか、静岡、長野も含めて5県で策定がされています。中部経済産業局といたしましては、東海ビジョンで重点分野として取り上げされました自動車、航空機、ヘルスケア、環境の戦略4分野の発展に向けて強力に支援しているところでございます。

昨年11月、53年ぶりの国産民間旅客機 MRJ の初飛行に成功いたしましたが、今後必要となります航空機部品の生産に向け、昨年12月、全国の22の航空機産業クラスターが参加する我が国初の国内航空機産業クラスターフォーラムを開催いたしました。フォーラムには、浜松航空機産業プロジェクト、飯田航空宇宙プロジェクトの方々にもご参加いただき、活発なご議論をいただきました。

また、地域的な防災の取り組みも重要であります。中部経済産業局におきましては、産業防災・減災を目的に一企業の枠を超えて、地域、業界などのグループ単位で事業継続力を強化することを目的とした地域連携 BCP の普及に努めております。災害に強いものづくり中部の構築を推進しております。こちら豊橋

市明海工業団地では、地域連携 BCP のモデル地域になっておりまして、去る 1 月には豊橋市及び明海地区の企業の方々のご協力のもと防災訓練あるいはセミナーなどを実施したところでございます。

最後になりますが、本サミットの開催に当たりまして、これまで多大なご尽力をされました鈴木康友会長を初め関係者の皆様に敬意を表しますとともに、三遠南信地域のますますの発展、本日ご出席の皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

■国土交通省中部地方整備局局長

茅野 牧夫 氏



ご紹介いただきました中部地方整備局長の茅野でございます。本日の三遠南信サミット2016 in 東三河がご盛会の運び、心からお祝い申し上げます。

日ごろから国土交通行政、とりわけこの地域の中部地方整備局が取り組んでおりますさまざまな施策への特段のご協力、ご支援、厚く御礼申し上げます。

この三遠南信サミットは、東三河、遠州、南信州、この3地域が県域を超えて連携して、住民、大学、経済界、行政が一体となって地域振興を図る画期的な取り組みであり、平成6年に第1回が開催されて以降、今回まで23回ということで、長期にわたり継続的に、か

つ活発に活動され大きな成果を上げてきたことに、深く敬意をあらわす所存でございます。

さて、一昨日2月13日に新東名高速道路が開通いたしました。55キロ、新東名高速道路の浜松いなさジャンクションから豊田東ジャンクションまでが開通したわけで、この新しい大動脈の位置づけによりまして高速道路の信頼性が向上し、安全性が確保されたところでございます。

この沿線各地では、既に工業団地の整備、企業の進出が顕著に増加しております、ものづくりの中核のさらなる発展とともに、すぐれた観光資源を有する当地域の観光振興にも日帰り観光圏が広がるなど、大きな効果が期待されているところでございます。

さらに浜松いなさジャンクションで新東名高速道路と直結いたします三遠南信自動車道につきましては、当地域の連携の骨格をなすものでございまして、全体100キロのうち、現道を活用する区間を含めれば約5割が開通しているところでございます。整備している区間のうち飯喬道路の約3.4キロにつきましては平成29年度に、佐久間道路の延長6.9キロについては平成30年度にそれぞれ供用を目指して今整備を進めているところです。特に三遠南信自動車道の1番の難所であります青崩峠のトンネル約5キロにつきまして、パイロットトンネルを今掘り進めているところでございます。この青崩、名前のとおり非常に難所でございまして、マイロナイトという手で触っても崩れるような石が出てきて、崩れやすく、非常に難しいところでございます。けれども、今我々の事務所を挙げて何としても無事完成させるように、掘り進んでいるところでございます。

この地域は三遠南信自動車道だけでなく、新東名高速道路も、リニア中央新幹線も整備が目前に迫っている地域でございまして、夢のような発展が期待されております。この地域がますます発展され、ご臨席の皆様方の

一層のご健康、ご活躍を祈念しまして、簡単ではございますけれども、私の挨拶とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。

■農林水産省東海農政局次長

小平 均 氏



皆さん、こんにちは。東海農政局次長の小平と申します。よろしくお願ひいたします。

本日は、この三遠南信サミットにお招きをいただきまして、ありがとうございます。

まず、関係者の皆様方には、ここに、このサミットが盛大に開催されますことを心よりお祝いを申し上げる次第でございます。

このサミットは23回目ということでございますが、この3つの地域の皆様方が一堂に会しまして、文化、歴史、産業振興等々深く議論を続けてこられたこと、本当に改めて深く敬意を表したいと思っております。

私も信州の生まれでございまして、陰ながらこのような活動に対して、本当に大変心強く感じているところでございます。

さて、最近の食料、農業をめぐる情勢ですが、農業に就業されている方の高齢化、あるいは減少が進み、また他方では国際化が一層進展していく中で、消費者のニーズも日々多様化、高度化しております。一方で、輸出などを含めて、競争力を高める取り組み、あるいは農村の多様な資源を生かした地域の活性化など、力強い動きも見られているとこ

ろでございます。

このような状況を踏まえ、昨年の3月に食料・農業・農村基本計画が閣議決定されました。国民の皆様方に安定的に食料を供給するということで、強い農業と美しく活力ある農村、この実現に向けて農業分野の成長産業化を進める産業政策、そして農業・農村の多面的な機能といいますか、多面的な役割を發揮していく地域政策、この2つの施策を車の両輪として進めることにしております。

また、昨年10月には TPP の協定が大筋合意に至ったということで、我が国の農政も農政新時代というステージを迎えるつあると思っております。農林水産省といたしましても、関係者の皆様に合意の内容を正確に、そして丁寧に説明し、また、皆様方のご懸念やご不安を払拭して進んでいくことが重要と思っております。また、将来の経営の発展に向けて、幅広い支援をしていくこととしております。

さらに、2020年にはオリンピック・パラリンピック東京開催が決定されておりましすし、和食の無形文化遺産の登録もございました。日本という国を世界に知ってもらう機運が高まっているのではないかと思います。今年5月には、三重県で伊勢志摩サミットが開催されます。こうした機会も含め、我が国に訪れる訪日外国人を取り込むインバウンドといったことも注目をされております。

この三遠南信地域、主要な幹線を抱えておりますことから、地域の食や文化も含め、いろいろおもてなしの需要喚起というものがあるのではないかと考えており、地域で連携しながらインバウンドを進めるということも重要なではないかと感じているところでございます。

三河地域につきましても、農業面から見ますと、水田農業が展開されている西三河地域と、花や野菜が展開されています東三河地域とに分かれます。いずれの地域も全国に先駆けて近代農業用水である明治用水や豊川用水

が引かれ、長い年月をかけてこれを整備し、そして、こうした関係者のたゆまぬ努力が重なって産地が形成されてきたところあります。

また、三遠南信地域においても、野菜、果樹、花、お茶など、さまざまな産地として名をはせている農業が展開されており、まさにこれがすばらしい地域資源ではないかと感じているところでございます。

また、これに加えまして、地域の関係者の皆様方が先進的な技術の導入に取り組んでおられるということで、こうした三遠南信地域各地域の取り組みは、まさに攻めの農林水産業の展開方向に沿うものであると思っております。

東海農政局としましても、三遠南信地域の皆様方が連携して、地域の農業関連産業が発展するように、さらには地域の資源を生かして、元気が出るような地域になっていくように、全力で応援をさせていただきたいと思っております。

最後になりますが、本日のサミットのテーマ「県境連携の蓄積を活かした三遠南信地域の創生」と伺っております。まさに今までの蓄積を活かすことにより、この地域の更なる発展につながりますように祈念をいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

■愛知県副知事 中西 肇 氏



ただいま、ご紹介いただきました愛知県副知事の中西でございます。知事所用のため代理で出席をさせていただきました。知事から祝辞を預かってまいりましたので、代読をさせていただきます。

本日、第23回目を迎える三遠南信サミットが、ここ愛知県豊橋市において、このように盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、ご臨席の皆様には、日ごろから本県行政の各般にわたり、ご支援、ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、三遠南信地域は日本の中央に位置し、古くから、「塩の道」と呼ばれる南北をつなぐ街道や天竜川の水運、東西交通の重要な幹線道路であった東海道などにより、人・モノ・文化などが盛んに行き交う、活力ある豊かな圏域を形成してまいりました。今日でも、東名高速道路や中央自動車道、東海道新幹線などの国土の大動脈が走っており、一昨日には、新東名高速道路の浜松いなさジャンクションー豊田東ジャンクション間が開通いたしました。新たな大動脈として、人やモノの交流が活性化し、産業や観光など、当地域の更なる発展につながるものと期待しております。

また、南北を結ぶ軸となる三遠南信自動車道の整備も進んでおります。さらには、2027年度に開業が予定されている東京ー名古屋間のリニア中央新幹線では、長野県飯田市に中

間駅が設置されることとなっており、この地域の社会経済の発展を支える基盤となる交通ネットワークは、今後、一層充実し、地域のポテンシャルはいよいよ高まってまいります。

そうした中、三遠南信地域では、県境を越えた広域での地域づくりの可能性にいち早く着目し、行政や経済団体が一体となって、平成20年に「三遠南信地域連携ビジョン」を策定し、連携・協力して地域づくりを推進してまいりました。その慧眼と取り組みの先駆性に対しまして、関係者の1人として、誇らしく感じているところでございます。

我が国が、本格的な人口減少・超高齢社会を迎える中、地域づくりの取り組みも、より効率的、効果的なものに進化していくことが求められております。そのためには、県や市町村の枠を超えて知恵を出し、様々に連携、協力して取り組みの可能性を広げるなど、「地域の総合力」を最大限に發揮していくことが必要であると思います。

愛知県では、平成24年度に「東三河県庁」をスタートさせ、地元関係者の皆様とともに、様々なプロジェクトを立ち上げ、地域が一体となって推進してまいりました。

また、昨年1月には、東三河8市町村で構成する「東三河広域連合」が設立され、地域づくりの推進体制は、さらに力強いものとなっております。

本日は、「県境連携の蓄積を活かした三遠南信地域の創生～ともに生きる未来を目指して～」をテーマに意見交換が行われると伺っております。皆様方がこれまで積み重ねてこられた取り組みの成果を踏まえ、より活発で充実した議論が交わされることを大いに期待しております。

最後になりますが、本日のサミットのご成功と三遠南信地域の連携の強化、さらなる発展を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成28年2月15日、愛知県知事 大村秀章。

代読。

本日はまことにおめでとうございます。